

一つの会社にしばられず  
安心して生きる

長い時間働けない人がいる。

福祉的就労ではなく、一般企業で働きたい。

社会に出たい。

そんな気持ちを、受け止める仕組みはないのか。

誰にでも、やれることがある、役割がある。山際明瑠さんは、

「ショートタイムワーク制度」で、

自分の可能性を広げることができた。

ピンポイント登板の  
社内デザイナー

山際明瑠さんは、東京・汐留のソフトバンク株式会社にて週一回、アルバイトとして勤務している。主な仕事は、ポスターやチラシのデザイン。もともと大学ではデザイン系の学科を専攻していた山際さん、「イラストレーター」や「フォトショップ」など、デザイン系のアプリケーションにも慣れている。

ソフトバンク株式会社ネットワーク開発統括部の佐々木秀幸さんは「山際さんに最初に来ていただいたのは、今年（二〇一六年）の五月でした。イベントに掲出するポスター制作業務がありまして。外部のデザイナーに発注しなければいけないかな、と考えていたところに、CSR企画部から話をいただいて。ピンポイントの業務ですし、もともと外注を考えていましたから『うまくいかなかったら、外に頼めばいい』と軽い気持ちで来ていただいたんです。そうしたら、想像していたよりも時間がからずにつくってもらえて、とても助か

りました」。ネットワーク開発統括部は、基本的には技術者の集まる開発部門。佐々木さんは、その中でイベント出展など営業的な動きもしているという。広報部・宣伝部ではないから、広報ツールに潤沢な予算は割けない。その意味でも、ピンポイントで業務が発生したときに来てもらえる山際さんの存在には助けられているという。「来ていただけて、いつもの職場でやっていただけたことも大きいです。その場で修正のお願いもできますから」。部署内で何か業務が発生すると、CSR企画部に依頼する。CSR企画部では、ショートタイムスタッフとして働いている人の中から、業務に適した人をアサインする。山際さんはデザインが得意だが、別の業務を依頼されることもある。たとえば同じ部署の平野さんは、部署内の鍵の整理を依頼したこともある。ソフトバンク株式会社は二〇一五年九月からはじめた「ショートタイムワーク制度」は、障害があっても長時間働くことが難しい人にも仕事をしてもらおうと設計された制度だ。現在一五人がこの制度を利用して働いているが、山際さんもその一人だ。

# シリーズ 障害者の就労事例 19 KOTONONE Series of Stories vol.19 山際明瑠さん（ソフトバンク株式会社） ショートタイムワークの星

編集部=文  
text by KOTONONE  
岸本 剛=写真  
photograph by Tsuyoshi Kishimoto